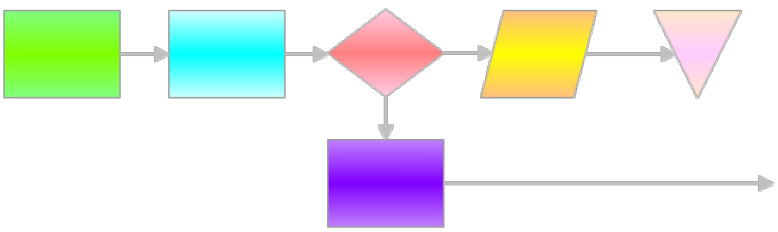
iGrafx FlowCharter 評価版



A Solid Foundation for Process Improvement

Enable Process Excellence.™

自習用ガイド

「iGrafx FlowCharter 評価版 自習用ガイド」©2018 by SunPlanningSystems, Inc. All rights reserved.
（株）サン・プラニング・システムズの書面による事前の許可がある場合を除き、本書の一部または全体を複製したり、電送することはできません。また、記憶装置に保存したり、他言語に翻訳することも禁止されています。

2018/01/09 Ver. 6.0.0
(株)サン・プラニング・システムズ

はじめに

本ガイドは、初めて『iGrafx® FlowCharter®』をお試し頂く方に、正しくご理解いただくための簡易的な操作ガイドです。

iGrafx FlowCharter は、多彩な機能を備えておりますが、ここでは簡単なフローチャートの作成を通じ、よく使われる機能を抜粋してご紹介させて頂きます。フローチャートの描き方には、さまざまな表記方法がありますが、ここで紹介しているフローチャートの描き方は、本ガイドの発行日現在の（株）サン・プラニング・システムズの見解を表明するとともに、iGrafx FlowCharter をご利用頂くことを目的として情報を提供します。

本ガイドが導入のご検討の一助となれば幸いです。また本評価版には正規のオペレーションガイドが添付されておりませんので、操作について不明な点がございましたらヘルプを参照ください。

iGrafx FlowCharter とは

iGrafx FlowCharter は使いやすいビジネスグラフィックソリューションです。組織内の各担当者はこの直感的なソリューションを使用して、プロセスマップ、ネットワーク図表、組織図、自由形式図表、体系的な図表、プレゼンテーション図表などを作成することができます。業務マニュアルを作成するのに適した機能や、ＢＰＭＮ対応機能も含まれています。

また iGrafx FlowCharter は、その上位ツールとして、業務シミュレーション機能を追加した iGrafx Process というパッケージもございます。プロセスという構成要素で作成したフローには、処理工程に関するさまざまなデータを組み込み、プロセスモデルを作成する事が可能です。たとえば、工程ごとの所要期間、入出力、スケジュール、費用、およびリソースの有無などのデータを定義します。ただし FlowCharter のライセンスのみでは、シミュレーションを実行する機能がないので、シミュレーションそのものは実行できません。（シミュレーションが実行できるのは Process、および Process for SixSigma のライセンスがある場合のみです。）

なお、本文中においてツール名称は、「iGrafx FlowCharter」または「iGrafx」と表記します。

iGrafx 製品のトレーニング

当資料を通じて iGrafx FlowCharter の有用性をご理解ください。こちらで紹介する機能はほんの一部です。さらに詳しい機能について学習する為に、弊社にて定期的に iGrafx のトレーニングを実施しております。さらに詳しく機能について学習するためにトレーニングコースを（1 日）をご用意致しております。是非、ご利用ください。

目次

フローチャートの概要 4
業務フローチャートを作成する 8
1. フローチャート作成の準備をする 8
1.1 基本図表を開く 8
1.2 図形パレットを準備する 9
2. フローチャートの作成 11
2.1 Swimlane の作成 11
2.2 図形を配置する 13
2.3 図形を接続する 17
2.4 図形を揃える 18
3. その他の便利な機能のご紹介 20
3.1 リンクを設定する 20
3.2 他のファイル形式に出力する 20
3.3 ページ外コネクタ 21
3.4 テーマを適用する 21

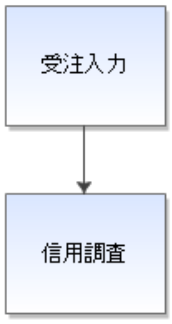
フローチャートの概要

iGrafx FlowCharter を使用すると、BPMN 表記や産能大式のフローチャートなど、さまざまな種類のフローチャートを作成することができます。
本ガイドでは、業務の処理手順を表現する汎用的なフローチャートの表記法で説明します。
iGrafx FlowCharter を利用して、業務マニュアルや内部統制の文書化、製造工程の文書化、プロセスの分析など、より多くの分野でお役立てください。

フローチャートのメリットは、図形の形から大まかな処理内容を読み取り、矢印によって手順を読み取ることができることです。まずは顧客から注文を受けた時の業務の流れを例に、フローチャートの図形の意味を考えてみましょう。

フローチャートの図形は「処理」を表します。この「処理」は、仕事を行う上での１つ１つの作業（行動）を表しています。「処理」は、四角形の図形を使い、図形の中に処理を表す作業内容を簡潔に記述します。

「受注入力」した次の処理を、同じように四角形の図形に記述し、処理の前後関係がわかるように矢印で接続します。

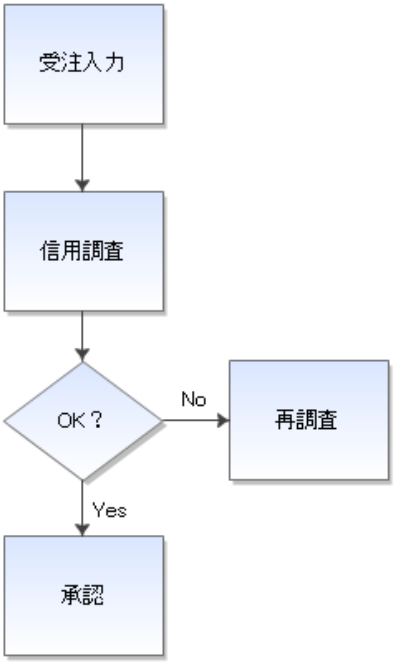


単純な業務の流れであれば、処理と処理を矢印で接続しながら、処理を追加するだけでフローチャートを作成することができます。「処理」を表す図形は、四角形の図形だけでなく、さまざまな形の図形を用いることで、絵から意味を読み取れるようにすることができます。
図形とその図形の意味は、記述ルールとしてあらかじめ決めておきます。

例）

【システム】　　【承認】　　【保存】

しかし業務の流れの中には、ある処理を起点に処理が分かれて業務が流れていくことも考えられます。例えば「信用調査」の結果、注文を受けた顧客に対して販売ができないと判断されるかもしれません。その場合は単純に次の処理に矢印で接続することができません。
このように判断によって処理が異なる場合は、菱形の判断図形を使って表現します。
iGrafx では、菱形の図形にあらかじめ条件分岐のラベルが付くように設定されています。



このように１つ１つの業務処理工程を図形で表し、フローチャートを完成させます。

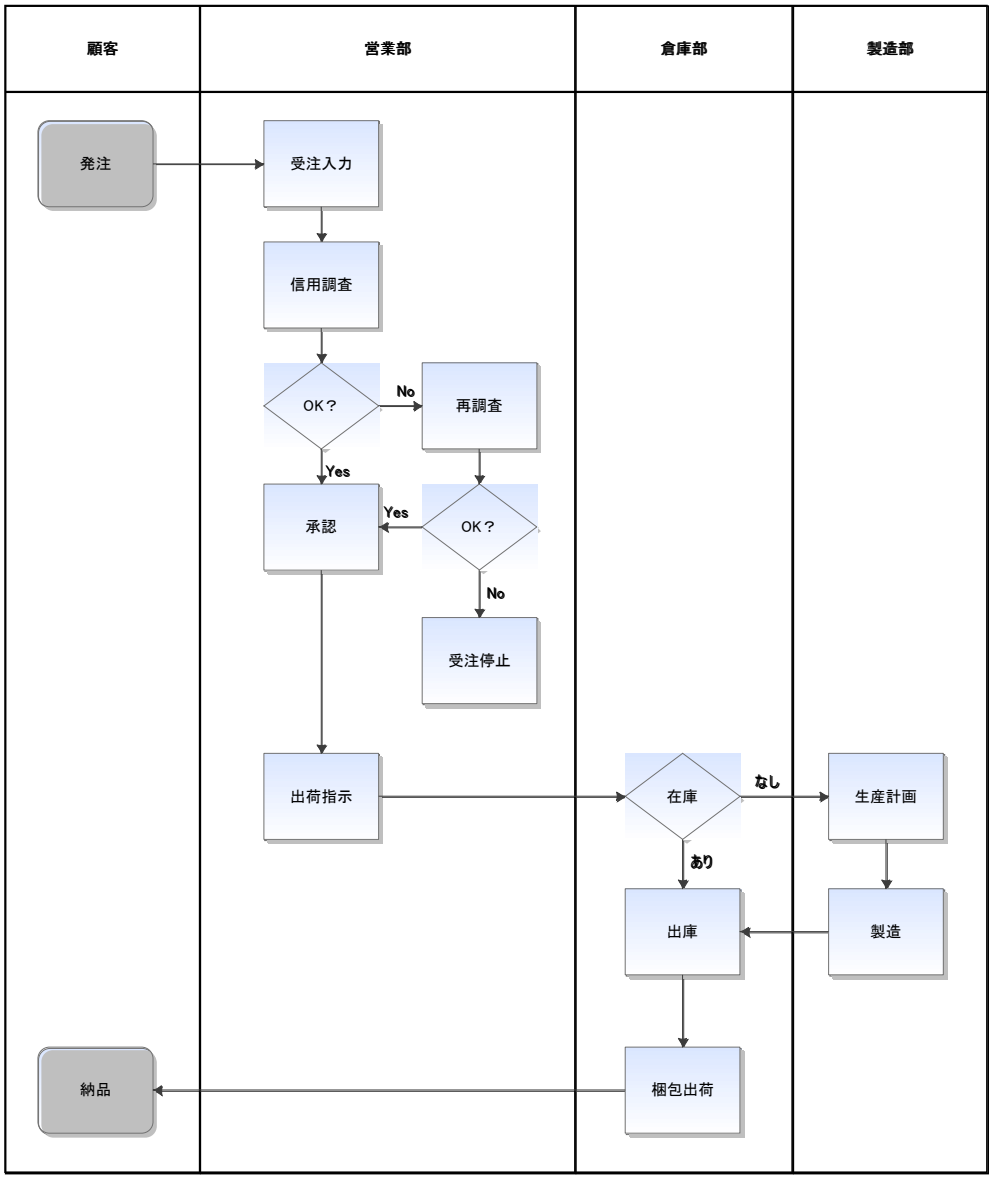
１つ１つの処理手順は、下の表レベルで分割し、かつ以下の視点で図形を配置すると記述しやすくなります。

- ✤ 実行する人が異なる場合は処理を分ける。
- ✤ 実行する人が用いるメディア（紙、PC、電話）が違う場合は処理を分ける。
- ✤ 活動の目的が異なる場合は処理を分ける。
- ✤ 活動の対象先が違う場合は処理を分ける。

	処理単位	処理の例	記述例
1	入力	・伝票起票 ・システムへの入力 ・記帳処理	振替伝票起票 仕訳データ入力
2	確認	・システムに入力した内容の確認、チェック ・記述内容の確認、チェック ・出力内容の確認、チェック	入力仕訳データ確認 起票内容確認 支払伝票確認
3	承認	・起票された伝票の承認（押印） ・システムへの入力内容の承認	支払伝票承認
4	出力	・システムからの伝票出力 ・システムからの帳票出力	振込明細票出力
5	送付	・帳票、証憑の送付 ・確認結果、承認結果の報告	振込依頼書送付
6	判断	・金額の大小による判断 ・処理方法の判断	基準額との比較
7	処理	・集計、計算 ・データ加工	時価計算 部門データ集計
8	保管	・証憑の保管 ・帳票のファイリング	領収書保管

フローチャートは、業務の処理手順はわかりますが、１つ１つの処理をどこの部署が実施しているのかわかりません。
そこでフローチャートを作成する場合は、部署ごとに実施している処理がわかるように枠組みの中に図形を配置します。下記のサンプルフローチャートをご覧ください。どうでしょうか？

責任部署が明確になり、部署と部署の処理の流れがわかりやすくなりました。
「部署」は、「会社」、「課」、「個人名」など、作成するプロセスの規模によって変わります。
iGrafx ではこれら「部署」を表す枠組みを「Swimlane」と呼んでいます。



フローチャートは、上記のように上から下に業務の処理手順が流れる縦型と左から右に流れる横型があります。どちらの向きで描いても問題ありませんが、人によって向きが変わることを避けるため、ルールとして決めておきましょう。

業務フローチャートを作成する

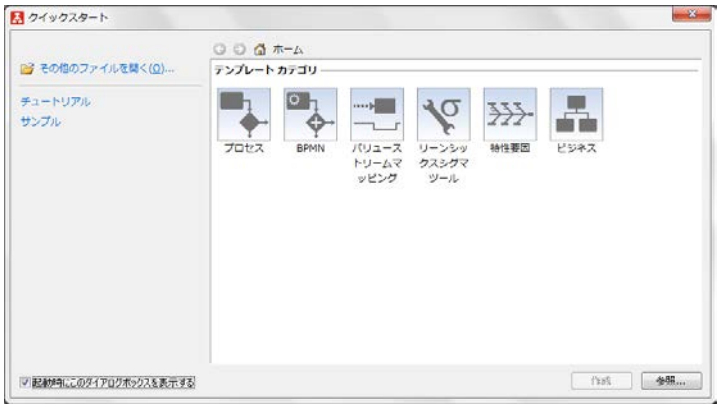
ここではフローチャートを作成する手順を紹介します。
前頁のサンプルフローチャートを参考に作成してみましょう。

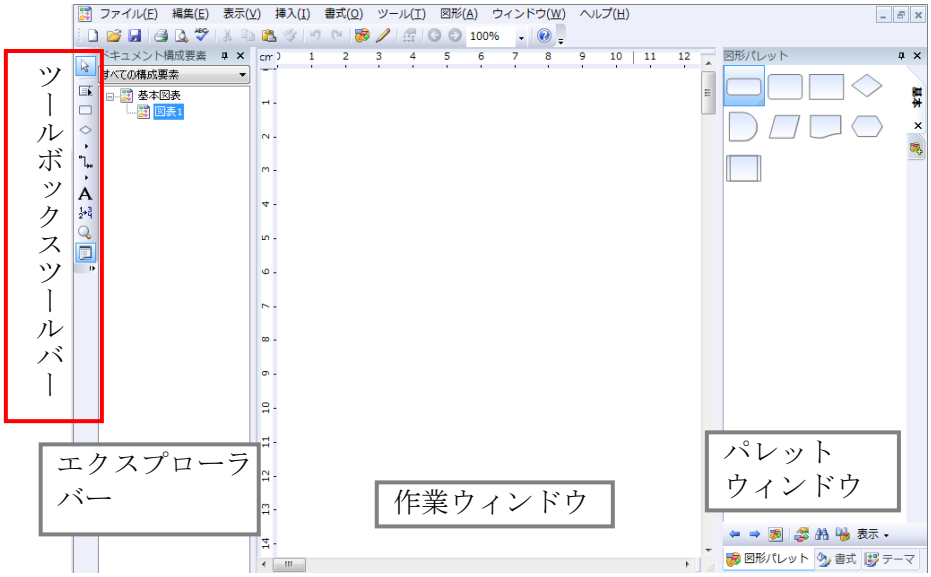
1. フローチャート作成の準備をする

1.1 基本図表を開く

iGrafx FlowCharter を起動するとファイルを開くための「クイックスタート」画面が表示されます。
「ビジネス」カテゴリをクリックし、「基本図表」をダブルクリックします。

※画面左下の「起動時にこのダイアログボックスを表示する」のチェックを外すと、次回起動時よりこの画面は表示されず、自動的に新規基本図表が開きます。

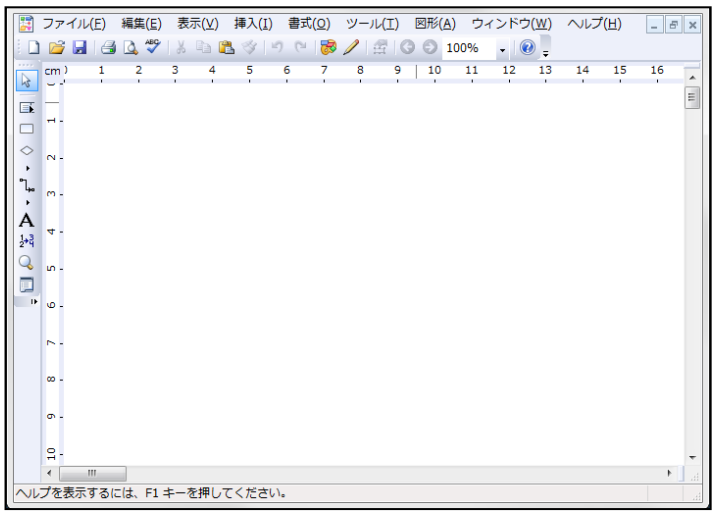




※「ツールボックスツールバー」「エクスプローラバー」「パレットウィンドウ」が表示されていない場合は、「表示」メニューより項目を選択してください。

【メモ】
「パレットウィンドウ」および「エクスプローラバー」には、タイトルバーにピンアイコン が用意されています。ピンアイコンをクリックし、「固定」「自動非表示」を切り替えます。

＜自動非表示の画面＞



ポインタを「ドキュメント構成要素」や「図形パレット」のタブに近づけると表示されます。

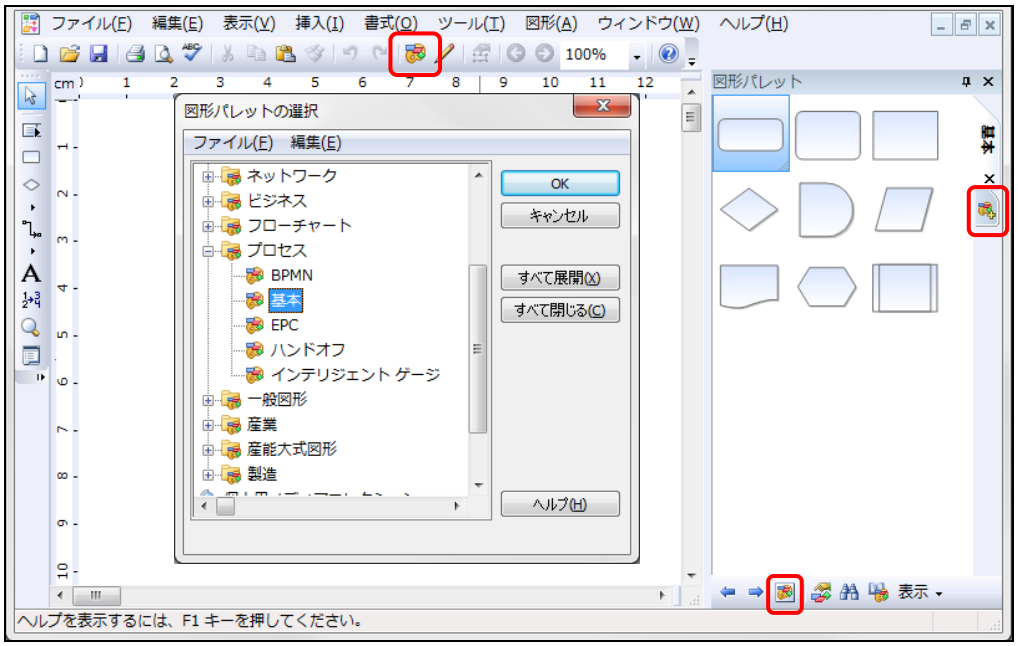
1.2 図形パレットを準備する

図形パレットには、たくさんの図形集が用意されています。ここではフローチャート用に用意された基本図形集を開いてみましょう。

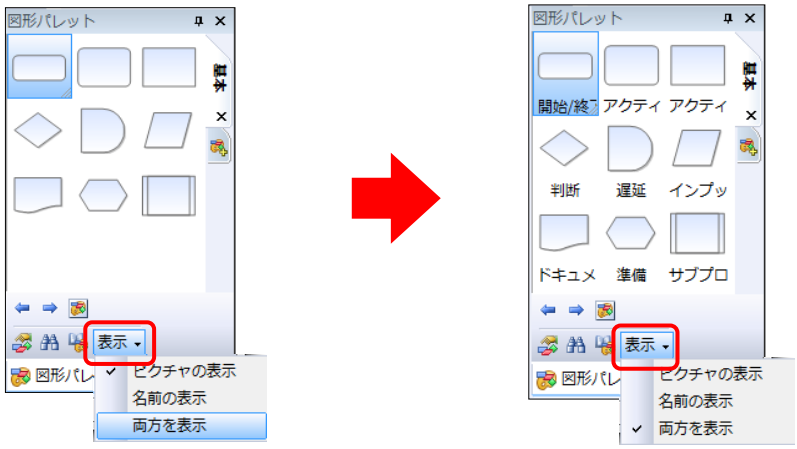
① 赤枠のすべてのアイコンから「図形パレットの選択」ダイアログボックスを開くことができます。

② 「プロセス」フォルダの「＋」をクリックし、「基本」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

③ 「パレットウィンドウ」に「基本」図形集が表示されます。



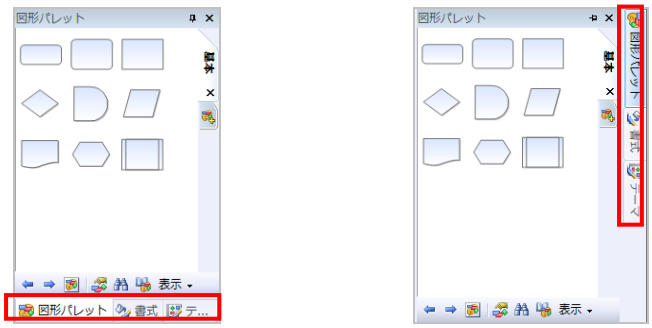
【メモ】
図形パレットの各図形に図形の名前を表示するには、図形パレットの右下にある「表示」をクリックし「両方を表示」を選択します。



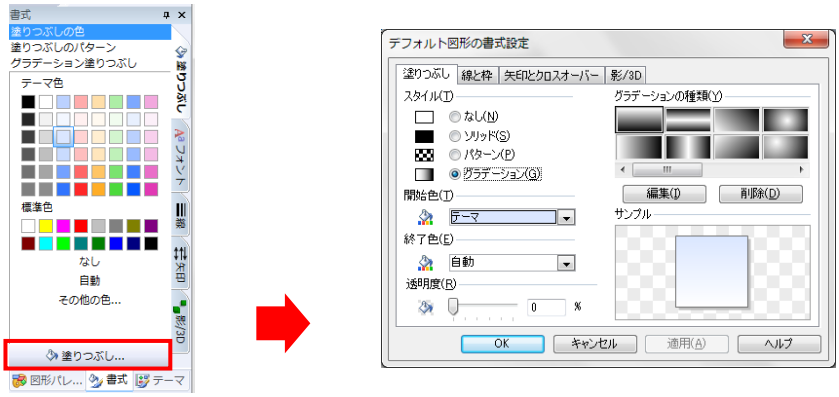
◆パレットウィンドウの利用

パレットウィンドウには、標準で「図形パレット」「書式」「テーマ」が表示されます。

【固定されている場合】　　【自動非表示の場合】



「書式」ウィンドウを利用すると、選択したオブジェクトに対して、少ない手順でスムーズに書式の変更を行うことができます。「書式」ウィンドウでは「塗りつぶし」「フォント」「線」「矢印」「影／３D」のタブを切り替えて設定します。それぞれタブごとに詳細な書式設定ができるダイアログボックスを開くことができます。

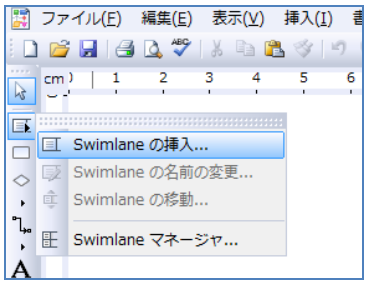


オブジェクトを選択せずに「書式」ウィンドウで設定を変更すると、初期設定値を変更したことになります。
初期設定値を変更してしまった場合は、再度オブジェクトを選択せずに「自動」を選択してください。

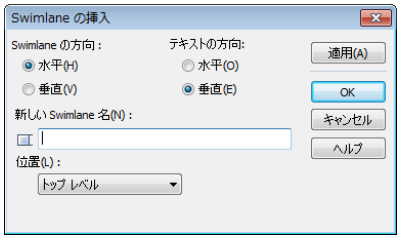
2. フローチャートの作成

2.1 Swimlane の作成

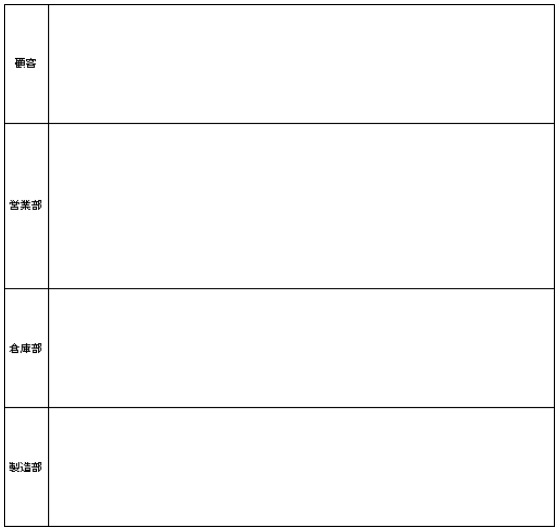
① 「ツールボックス」ツールバーの「Swimlane 部門」アイコンをクリックし、「Swimlane の挿入」を選択します。



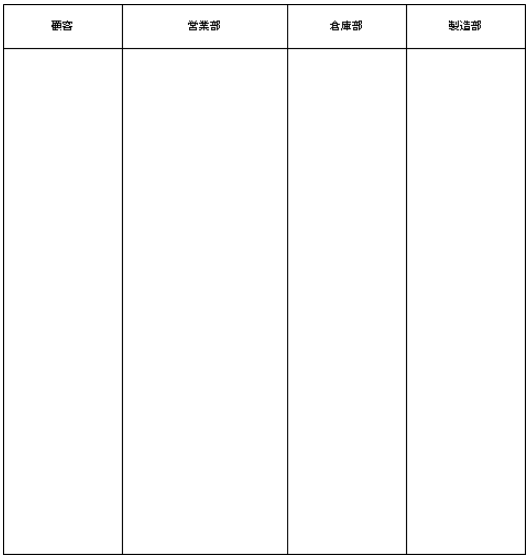
② 「新しい Swimlane 名」に登録する Swimlane 名を入力し「OK」ボタンをクリックします。
連続で複数の Swimlane を追加する場合は、「適用」ボタンをクリックします。



【Swimlane の方向が「水平」の場合】



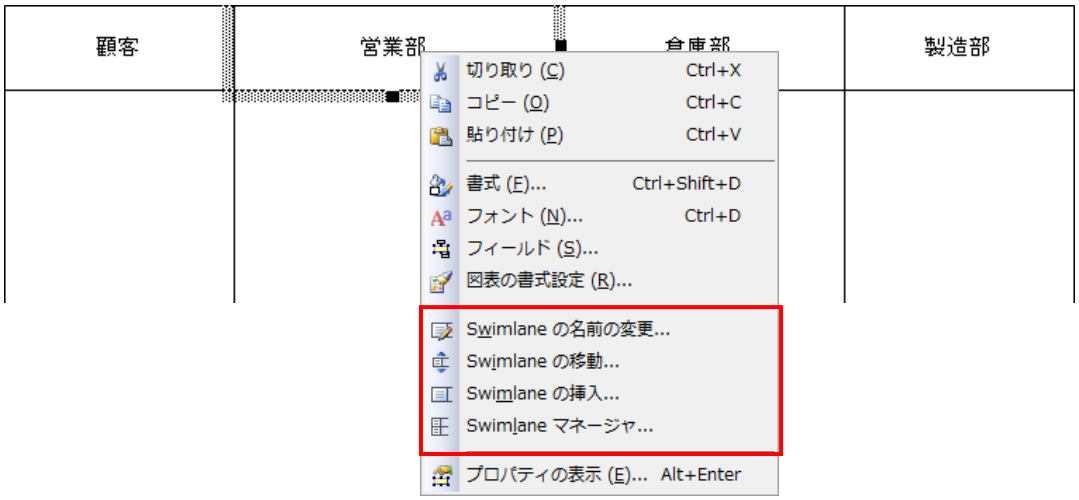
【Swimlane の方向が「垂直」の場合】



【メモ】
図形を配置してから、Swimlane の方向を変更することはできません。あらかじめ Swimlane の向きを考えて置く必要があります。

◆Swimlane の編集

各 Swimlane は、Swimlane 名が表示される「名前領域」と図形を配置する「プロセス領域」で構成されています。
Swimlane の名前領域で右クリックするとコンテキストメニューが表示され、「Swimlane の名前の変更」「Swimlane の移動」「Swimlane の挿入」「Swimlane マネージャ」より簡単に編集することができます。

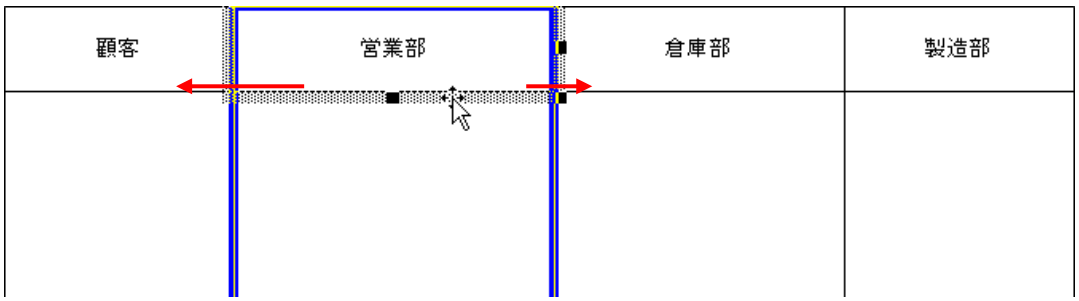


◆Swimlane の削除

Swimlane の名前領域を選択し、「Backspace」キーまたは「Delete」キーで削除できます。
Swimlane を削除すると、Swimlane 内のすべての図形と、それらの図形に接続された接続線もすべて図表から削除されます。

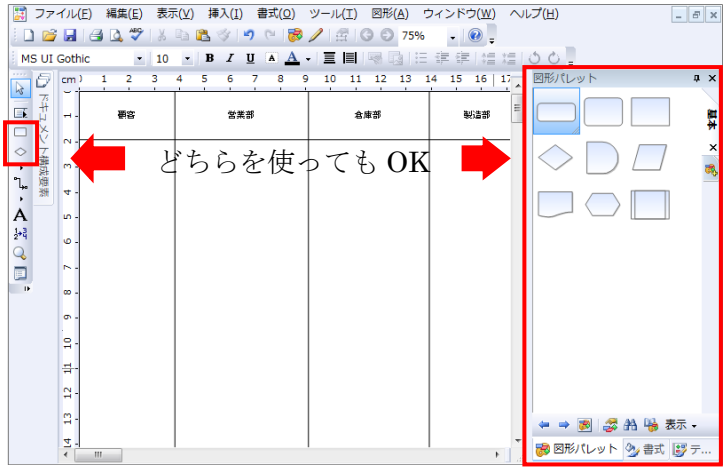
◆Swimlane の移動

Swimlane は、図表内で移動することができます。Swimlane の名前領域を選択し、枠線上の網かけ部分を移動したい方向にドラッグします。同じレベルの範囲で移動することができます。Swimlane を移動すると、その Swimlane に配置された図形なども一緒に移動します。Swimlane を移動しても、図形の関係は保たれます。

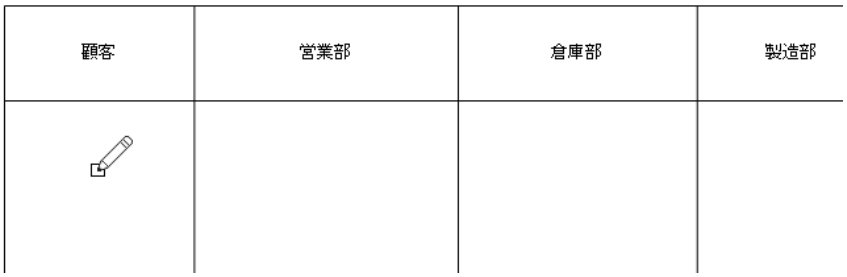


2.2 図形を配置する

iGrafx FlowCharter には、あらかじめ図形パレットにたくさんの図形が用意されています。本ガイドでは、フローチャートの基本図形を使って説明します。図形はツールボックスツールバーに登録されている図形を使ってもかまいません。



① 図形を選択し、作業ウィンドウにマウスポインタを移動します。マウスポインタは、鉛筆に図形がついた形（図形配置モード）に変わります。



※選択した図形をドラッグで作業ウィンドウに移動した場合は、このマウスポインタの形になりません。

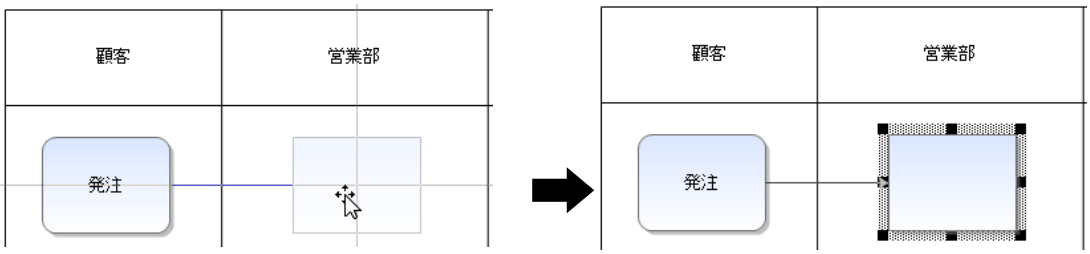
② 作業ウィンドウでクリックします。選択した図形が配置されます。
図形が配置されると、ポインタは白い矢印（選択モード）に戻ります。

③ 配置した図形に「処理」の内容を記述します。記述した内容は、「Esc」キー、または図表の空白部分をクリック、次の操作（図形選択をするなど）を行なって確定します。

※図形を選択した状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに切り替わりテキスト入力ができます。

④ 次の処理に必要な図形を選択し、既に配置している「発注」図形の上に重ねるようにマウスポインタを移動します。マウスポインタは鉛筆に図形が 2 つ接続された形に変わります。

⑤ 次の図形を配置したい方向にドラッグし、マウスの左ボタンを離すと、矢印で接続された図形が配置されます。



⑥ 上記手順④と⑤を繰り返し、フローチャートを作成します。

【メモ１】
同じ図形を配置する場合は、以下の操作で大幅に作業を軽減することができます。

・ツールボックスツールバーに登録している図形をダブルクリックすると「完了」ボタンが表示されます。この「完了」ボタンをクリックするまで、マウスポインタが図形配置モードを維持するので、連続して図形を配置することができます。

・図形を選択して［Ctrl］＋矢印キー（[←]［↑］［↓］[→]）を押下すると、任意の方向に連続して図形をつなげて配置することができます。

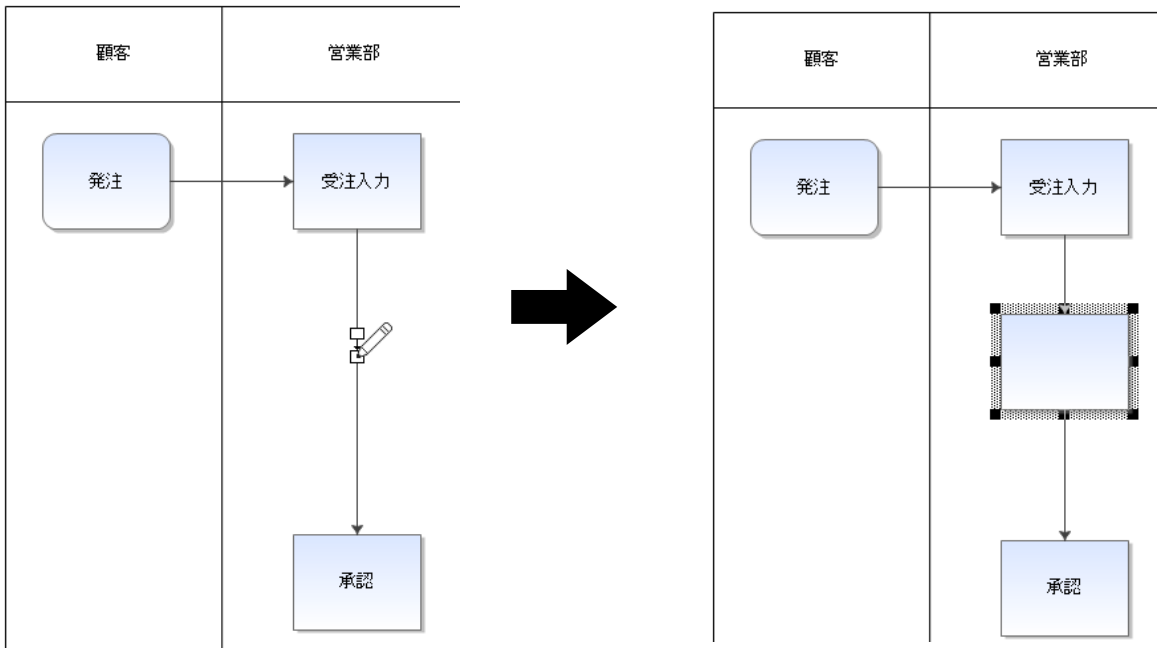
【メモ２】
iGrafx FlowCharter では図表の余白をクリックすると、マウスポインタの形が下記のようにさまざまな形に変化します。

(選択モード) (図形配置モード) (接続線配置モード)

これは、前に操作した動作を簡単に連続して繰り返すことができる iGrafx 特有の機能です。
意図しない場合は、「Esc」キーまたは「ツールボックス」ツールバーの「選択ツール」をクリックすると選択モードに戻すことができます。

◆接続線上の図形配置

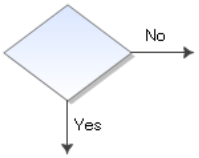
接続線で繋がった図形の間に新しい図形を追加します。
図形を選択し、マウスポインタを接続線上に重ねるように移動します。マウスポインタが鉛筆に図形が 2 つ接続された形に変わったことを確認し、クリックします。



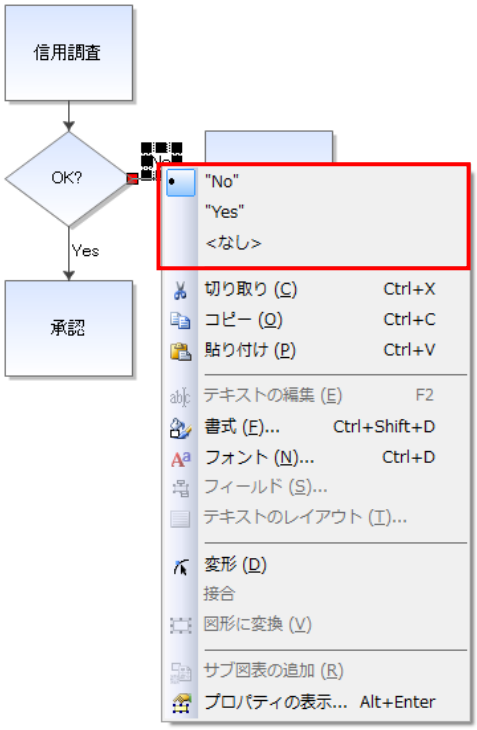
【メモ】
あらかじめ図形が挿入できるだけのスペースを確保してから図形を配置してください。
不要な図形は選択して［Delete］キーを押下します。削除した場合は、図形の前後の接続線が自動で繋がります。

◆判断図形

ケーステキストは、決定動作を持つ図形の出力線にラベルを表示します。初期設定ではひし形の図形に決定動作（「Yes」と「No」）が指定されていて、最初に引いた接続線には自動的に「No」というラベルが表示されます。



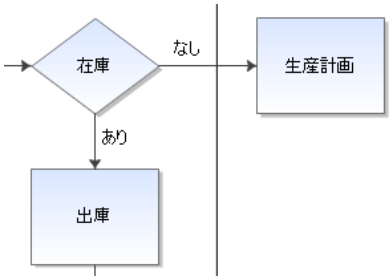
ケーステキストを入れ替えたい場合は、ラベルの上または接続線の上で右クリックし、コンテキストメニューよりラベルを選択することによって簡単に入れ替えることができます。

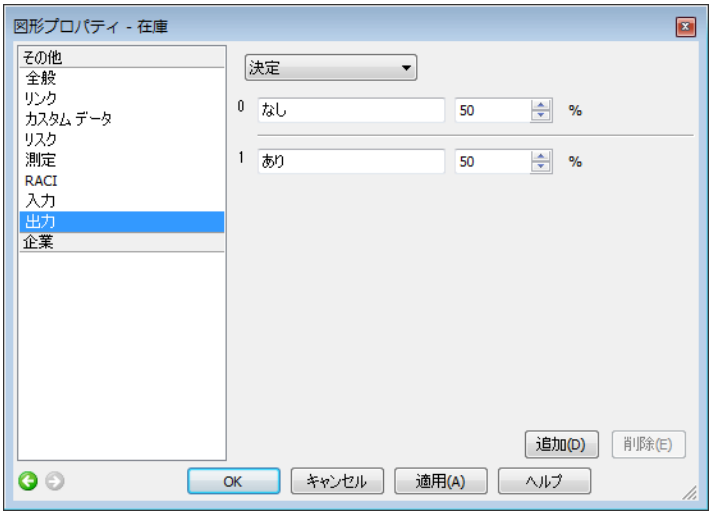


ラベルは自由に編集できます。

① 判断図形をダブルクリックし、図形プロパティを開きます。

② 「出力」カテゴリを選択し、ラベルを編集します。



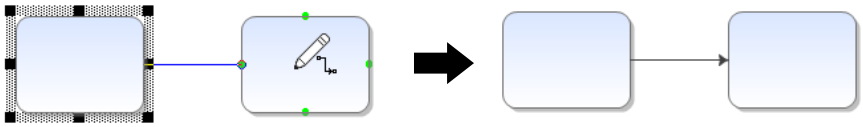


2.3 図形を接続する

２つの図形を接続線で結びます。マウスポインタが「選択」モードになっていることを確認します。

① 接続線を引き始める図形の内側から、接続先の図形の内側までドラッグします。

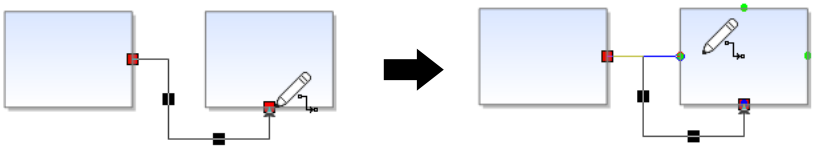
② マウスの左ボタンを離すと、図形間に接続線が描かれます。



図形間を接続している線の接合点を移動することができます。

① 接続線を選択します。

② 線の接合点（赤い点）をクリックし、新しい接続点にドラッグします。

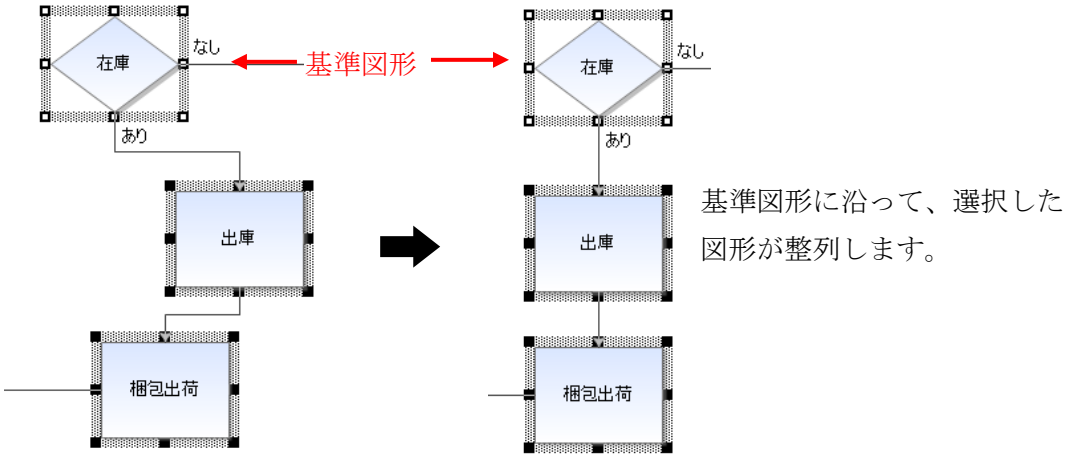


2.4　図形を揃える

図形をきれいに揃えます。
図形の揃えは、基準図形に合わせて整形されます。「Shift」キーを押しながら揃えたい対象の図形を選択した場合、最後に選択した図形に白いハンドルが表示されます。これが基準図形です。基準としたい図形に白いハンドルが表示されていない場合は、「Shift」キーを押しながら一旦選択を解除し、再度選択しなおしてください。

① 揃えたい図形を複数選択し、基準図形に白いハンドルが表示されていることを確認します。

② 「図形」メニューの「揃え」をクリックし、サブメニューを選択します。

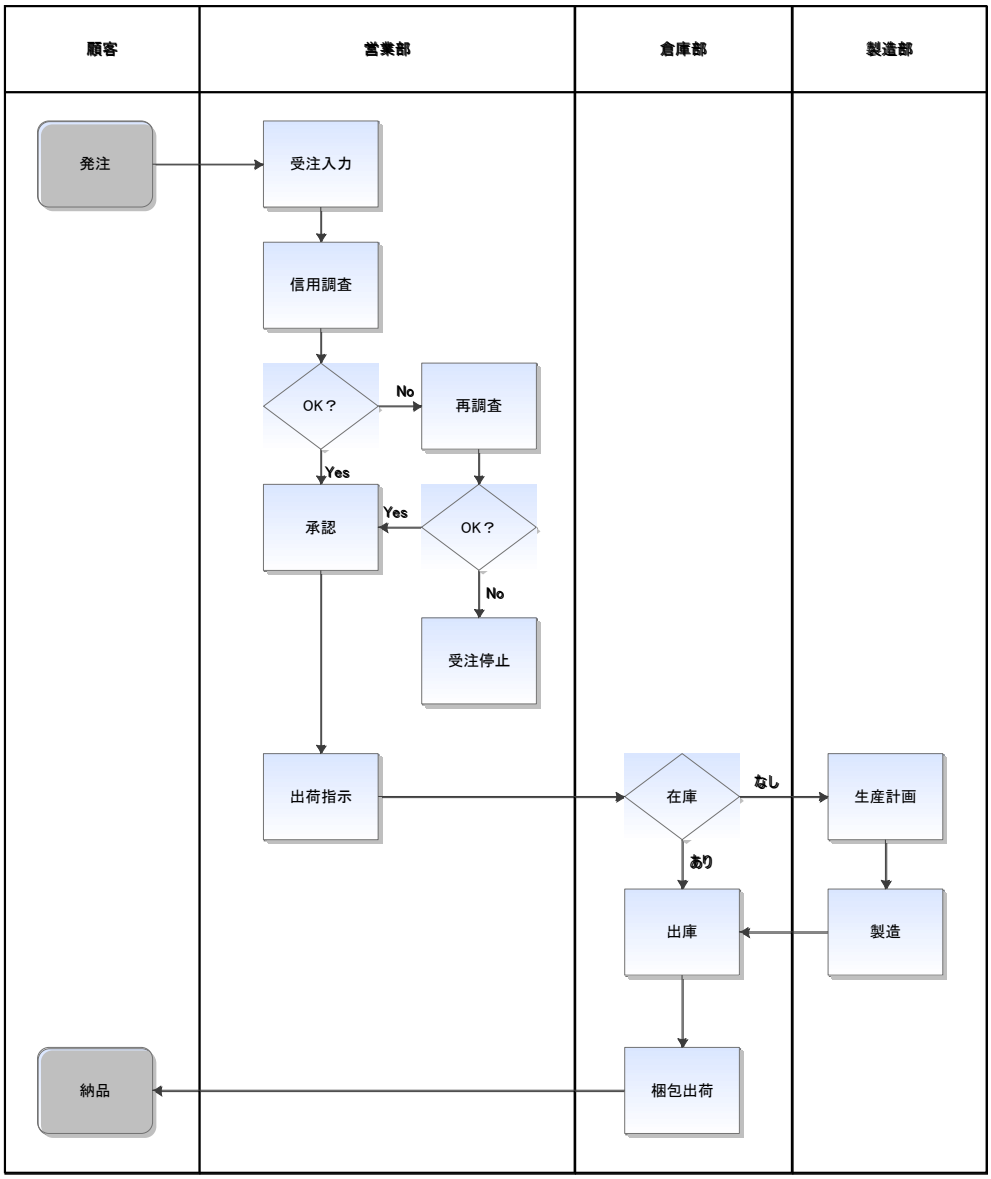


◆図形サイズを揃える

① 同一サイズにする図形を全て選択します。

② 「図形」メニューの「同一サイズにする」をクリックし、サブメニューを選択します。

これでフローチャートの完成です。



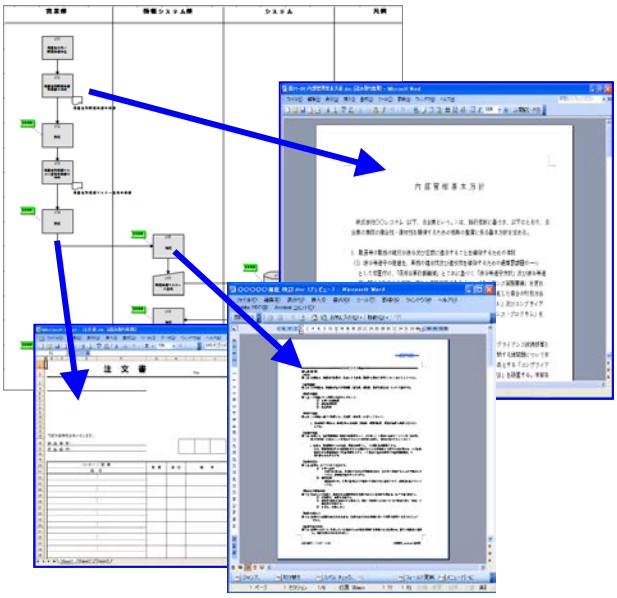
3. その他の便利な機能のご紹介

iGrafx FlowCharter には、たくさんの便利な機能を搭載しています。
ここではその一部分をご紹介します。

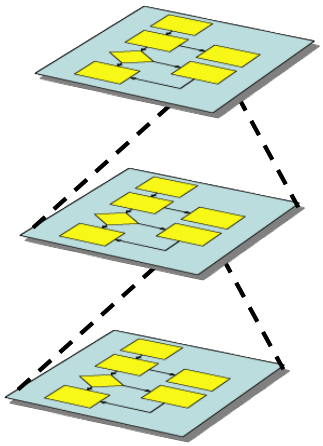
3.1 リンクを設定する

フローチャートの図形に別のフローチャートや別アプリケーションの文書や Web サイトなどをリンク設定して呼び出すことができます。
またリンク機能を利用してフローチャートを階層化して管理することもできます。

【関連文書を呼び出す】



【フローチャートの階層化】

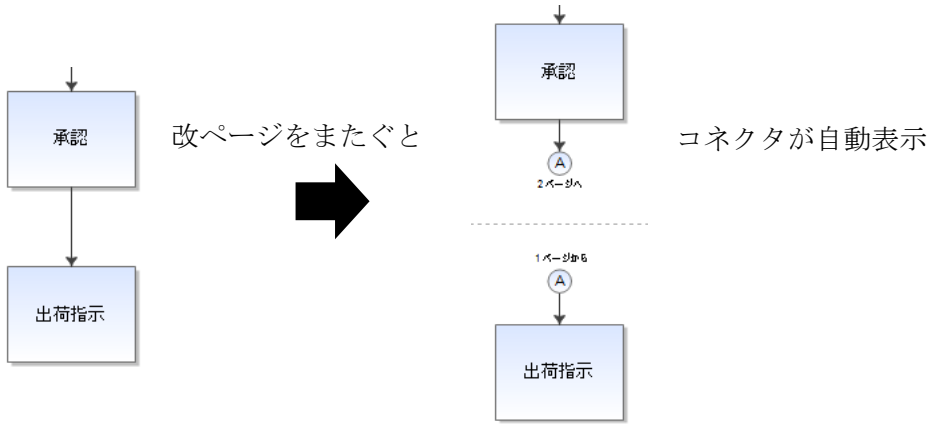


3.2 他のファイル形式に出力する

iGrafx 以外の形式（「Web」「Word」「PowerPoint」「PDF」）に出力することができるので、iGrafx をインストールしていないパソコンでもフローチャートを閲覧することができます。
特に「Web」や「PDF」形式に出力すると、iGrafx ファイルに設定されたリンク先をナビゲートすることができます。

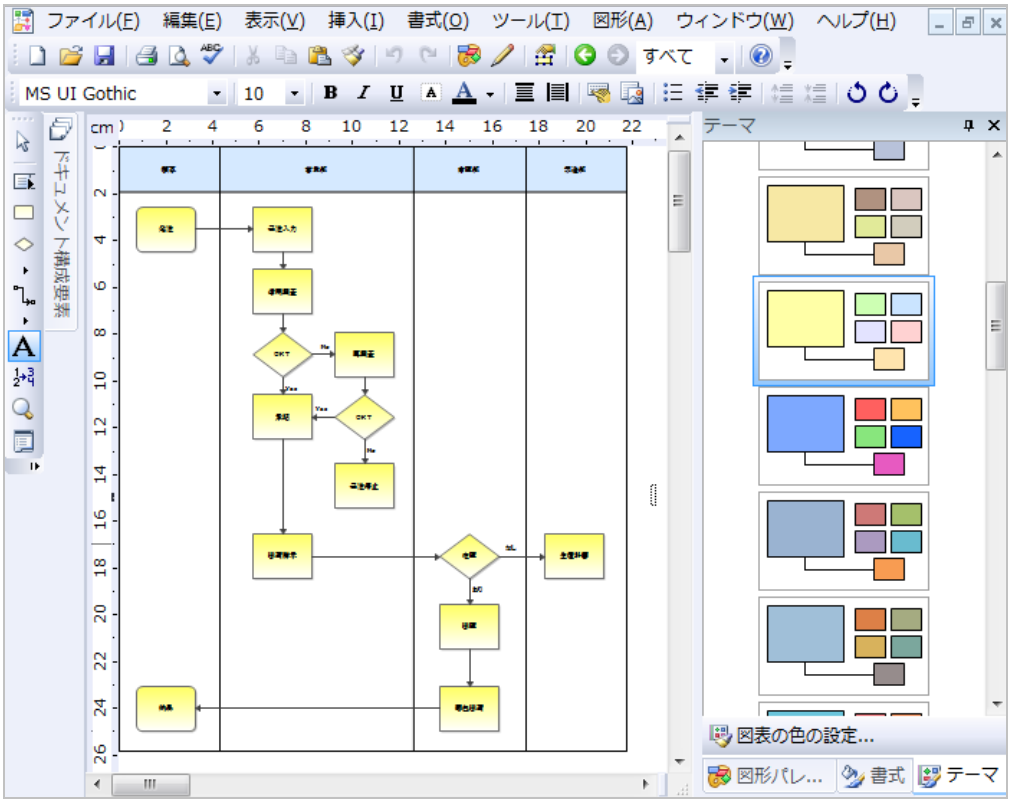
3.3 ページ外コネクタ

2 ページ以上にまたがるフローチャートを印刷する場合、コネクタをつけるとわかりやすくなります。
コネクタは接続線が改ページをまたぐと自動的に表示されます。



3.4 テーマを適用する

テーマを使用すると簡単にフローチャート全体の色を構成することができます。
会社のロゴやブランドイメージに合わせて独自の配色を定義することもできます。



これを機会に是非、iGrafx 製品の導入をご検討いただきますようお願い申し上げます。

iGrafx®

SPS

Enabling Process Excellence.™